

平成 27 年度 佐賀県立男女共同参画センター（アバンセ）  
専門課題調査研究事業報告書

社会人ロールモデルイベントによる学生の男女共同参画意識の啓発と  
その効果

— アバンセ「平成 27 年度 学生への意識啓発事業」の事例より —

客員研究員

国立大学法人佐賀大学 キャリアセンター 准教授

森田 佐知子

(2016年3月)

## 1. はじめに

佐賀県立男女共同参画センター（以下、「アバンセ」とする）は、佐賀県における男女共同参画に対する学生の意識啓発事業を実施している。本年度はこの事業の一環として、学生向けイベントを開催することを計画しており、学生の意識啓発事業として効果的なイベント内容の企画と実施、効果測定のため、客員研究員を委嘱した。本年度（2015年度）の客員研究員は森田佐知子（佐賀大学キャリアセンター准教授）である。

## 2. 社会人ロールモデルを使ったアプローチ

古野（1999）はロールモデルについて下記のように述べている。

ロールモデルとは、平たく言うと、憧れの先輩モデルである。－中略－ 彼等の働き方、職業観を学ぶことによって、自分の中にあるこだわり、価値観が浮き彫りにされることも多い。そして、将来の自分の働き方を、そのような先輩を見ることによって、リアリティをもって描くことが可能となる。すべての芸事が模倣から始まるように、憧れの先輩を模倣することからキャリアデザインは始まり、実際に働くことを通して「自分らしさ」＝自分だけのキャリアデザインは描かれていく。

また古野（1999）は以下のようにも指摘している。

キャリアデザインを行うためには、現実と自己の統合を図らなければならない。－中略－ 自己概念に関しては、自己の過去の棚卸しを行ったり、キャリアアセスメントを行ったり、友人、両親、同僚等からのフィードバックをもらうことによって、自己理解を図っていく。一方外的環境に関しては、新聞、情報誌、知人、友人、両親、専門家などから、情報を得ることはできる。しかしながら、自己を知り、外的環境の情報を得たととしても、それらを統合することができなければ、キャリアデザインを描くことは難しい。事実、自己概念と外的環境の統合という作業が難しいために、キャリアデザインを途中で断念している人が多い。この統合を容易にする方法が、ロールモデルを使ったアプローチである。

つまりロールモデルを使ったアプローチにより、学生の自己概念（自分の強みとなる能力や特性、職業や働き方に関する希望等）と、外的環境（実際の求人状況や地域における雇用状況、その職業に求められる力等）の統合を容易にし、男女ともに、自分自身が生き活きと活躍できるキャリアを思い描くことに対する効果を期待できるということである。

そこで本事業のイベントとして、佐賀県内の企業及び自治体で活躍する男女4名のロールモデルによるパネルディスカッション「サガで働く先輩たちのリアルトーク！！」を実施し、多様な生き方・働き方や価値観、及びその底流にある男女共同参画の大切さについて学び、男女の固定的性別役割分担意識にとらわれない、自分らしい生き方・働き方を見出していく機会を学生に提供することとした。

## 3. コーディネーターとパネリストの人選について

コーディネーターは、内田信子氏を採用することとした。内田氏は自身も二人の子供を育てながらテレビ局という多忙な業界で長年働き、管理職となった女性である。また佐賀県内の雇用環境や産業に関する知識が豊富で、アナウンサー経験もあり、本イベントのコーディネーターとして最適な人材であると考えた。内田氏の略歴は下記の通りである。



**【内田信子氏 略歴】**

昭和 55 年に株式会社サガテレビ入社。翌年からアナウンス業務に就き、平成 4 年度の FNS アナウンス大賞（フジテレビ系列局の最優秀アナウンサー賞）を受賞。記者、デスク、情報番組ディレクターなどを経て、平成 24 年より報道制作局報道制作部担当部長。  
平成 26 年 4 月に早期退職後、佐賀大学「佐賀錦研究所」客員研究員、学校法人旭学園非常勤理事となる。  
女性で立ち上げた「ハンドメイドフェア さが・ひな市」の副実行委員長。平成 27 年 3 月佐賀市で開いた 4 回目のイベントには 2 日間で 4 万人が訪れた。  
特定非営利活動法人「女性参画研究会・さが」理事。

パネリストについては、アバンセ担当者と客員研究員、そしてイベントを共催した佐賀大学男女共同参画推進室の宮地助教にて何度も打ち合わせを重ね決定していった。今回のパネリストは学生に提供するロールモデルであるため、男女 2 名ずつ、地方自治体、地元企業、そして地元企業の中でも、サービス業・メーカーの技術者・女性管理職等、偏りのない人選が求められた。その結果、以下の 4 名の方にパネリストとして参加していただくこととなった。4 名の方の略歴は下記の通りである。

**【円城寺雄介氏 略歴】**

佐賀県統括本部 情報・業務改革課 主査。  
立命館大学経済学部 卒業。  
佐賀県庁入庁。道路・河川整備業務、金融監督業務、人材育成業務、救急医療といった部署を経て、現職。  
（ICT 全般やオープンデータなどを担当）



**【大木八重氏 略歴】**

株式会社ヨコオ 商品開発部営業企画課 リーダー。  
佐賀大学農学部応用生物化学科 卒業。  
明治製菓株式会社 入社。開発技術研究所配属、研究企画部へ異動（市場調査、開発時調査等担当）、退職。  
サンスター株式会社 入社。（派遣社員）、退職。  
現職。（商品開発企画、パッケージデザイン、出版物作成等）

**【高田十三恵氏 略歴】**

アイ・ケイ・ケイ株式会社 鳥栖支店。  
佐賀大学経済学部経済システム課程 入学。  
北京工業大学 留学。留学生内年間成績 1 位（上期・後期）。  
佐賀大学 卒業。  
アイ・ケイ・ケイ株式会社 入社。現職。（ウェディングプロデューサー、入社年度から現在まで、全支店内での年間表彰 1～5 位）



**【安西省氏 略歴】**

森鉄工株式会社（鹿島市） 技術部設計課。  
佐賀大学理工学部機械システム工学科 卒業。  
JA 佐賀経済連 管理部情報システム課 入社（社内インフラ整備、メインフレームでのシステム開発）、退職。  
現職。（主に油圧プレスの機械設計）

まず円城寺氏は佐賀県庁にて活躍する職員である。地方国立大学の特に社会科学系の学生の中で、公務員は非常に人気のある職業である。しかし学生の中には、公務員となって実現したいことがあるというよりは、地方においても安定した収入が得られるというイメージのみで漠然と公務員を目指す学生も多い。そこで、公務員として佐賀で働くとはどのようなことなのか、学生に明確なイメージを提供したいと考え依頼した。

大木氏は佐賀県の食品メーカーで働く管理職である。女性が子育てをしながら、企業の管理職として働くとはどのようなことなのかというイメージを提供したいと考え、参加していただくこととした。また大手食品メーカーで働いた経験もあるため、全国展開している大手企業と地元の企業との違い、また東京都と佐賀県での生活の違い等も経験しておられるパネリストである。

高田氏は鳥栖市にてウェディングプロデューサーとして活躍している若手社員である。地元佐賀大学の出身であるが北京工業大学への留学経験がある。地元を代表するサービス業の企業で働く中で、サービス業のやりがいや、留学経験をどのように佐賀県内の仕事で活かすことができるのかについて、学生にお話しいただけることもあり参加していただいた。

安西氏は機械メーカーで技術職として働いておられるパネリストであり、佐賀県内での転職経験がある。これまでも何度か佐賀大学生のキャリア教育の授業で講話していただいた経験があり、常に本音ベースで学生と向き合っていた。工学系の学生は求人状況が良いこともあり、関東に本社を持つ大手メーカーへの就職を希望する学生も多い中、他にはない技術力を持つ佐賀のメーカーでグローバルに働くイメージを学生に提供していただきたく依頼した。

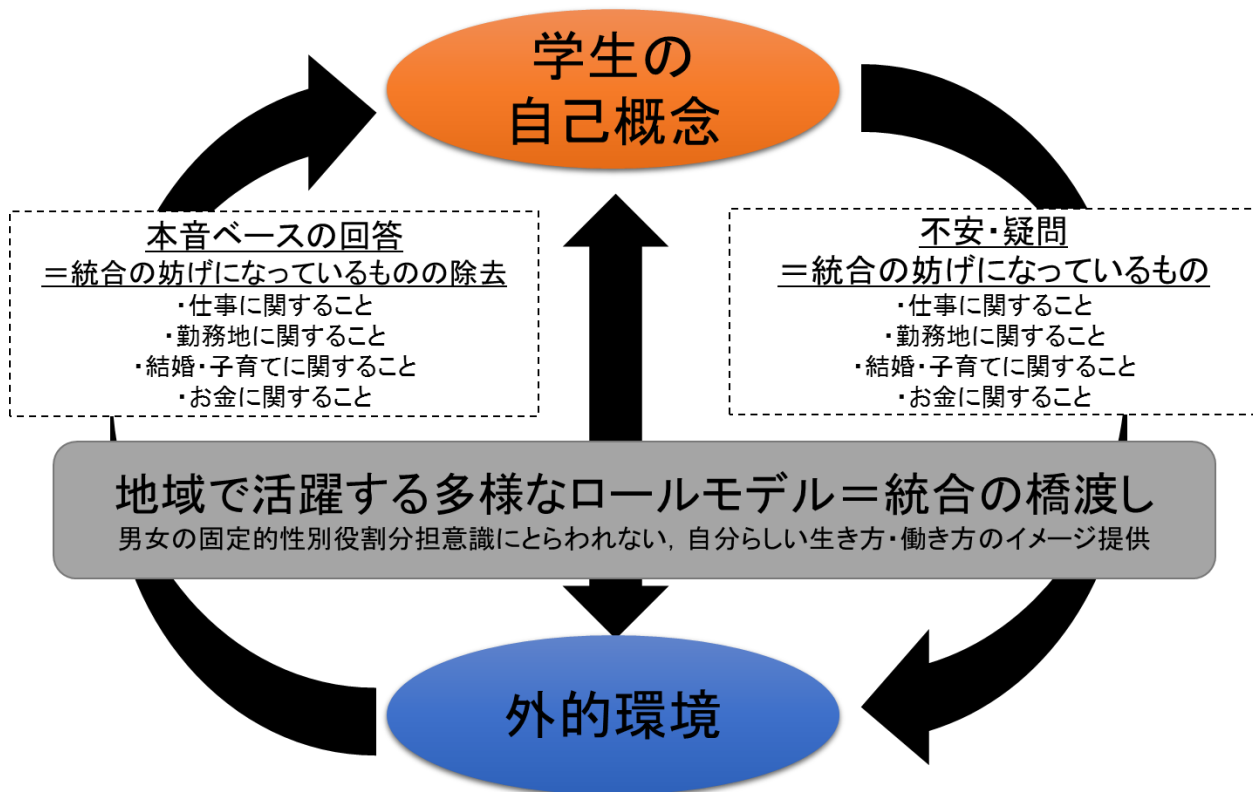
#### 4. ロールモデルイベントによる学生の自己概念と外的環境の統合

地域で活躍する社会人を招いてのパネルディスカッションイベントであれば、これまでも多く開催されている。しかし本イベントの特徴は、主催者側でロールモデルイベントによる学生の自己概念と外的環境の統合を促す仕掛け作りを行ったことである。この仕掛け作りのきっかけとなったのは、アバンセ事業統括である佐賀大学文化教育学部 上野景三教授の「学生はこのようなイベントでどんなことを知りたいと思っているのか、学生の本音を引き出すような仕掛けはできないか」という提案であった。

そこで本イベントでは、冒頭に学生に、「仕事」、「勤務地」、「結婚・子育て」、「お金」に対する10年後の自分のイメージ（自己概念）と、それぞれの項目について不安・疑問に思っていること（自己概念と外的環境の統合において妨げとなっていること）を書き出してもらった。その後、パネリスト4名による簡単な自己紹介（5分程度）をした後で、上にあげた4つの項目に対する不安・疑問をグループで共有してもらう時間をとることとした（自己概念と外的環境の統合に関して妨げとなっていることの共有）。グループであがった不安・疑問は、発表形式ではなく、大きめのポストイットに書き出してもらい、主催者にて用意したそれぞれの項目の模造紙に貼り付けるという手順をとった。模造紙に貼り付

けられた不安・疑問は主催者側スタッフにて分類し、これをもとに内田氏のファシリテートによるパネルディスカッションを実施（自己概念と外的環境の統合において妨げとなっていることの除去）するという形式とした。図1にその概念を示す。

図1. ロールモデルイベントによる自己概念と外的環境の統合イメージ



出所：筆者にて作成

### 5. 当日の開催概要と学生からの不安・質問について

当日の開催要領は下記の通りである。

開催日時：平成27年12月9日 13時～15時

開催場所：佐賀大学 本庄キャンパス

大学会館 2階 多目的ホール

参加者：55名（うちアンケート回収数：49名）

当日学生からは、仕事に関する内容39項目、勤務地に関する内容18項目、結婚・子育てに関する内容32項目、お金に関する内容25項目、と、合計114の不安・疑問があった。これらを

踏まえたうえでコーディネーターの内田氏からパネリストに対して問いを投げかけていった。学生からあがった不安・疑問を表1に示す。

＜当日のタイムテーブル＞	
13:00	開会・開会挨拶 (アバンセ事業統括 上野景三氏)
13:05	イントロダクション
13:10	ワーク (30歳の自分はどうしてる?)
13:15	パネリスト自己紹介
13:35	グループワーク (先輩たちへ聞きたいこと)
13:55	不安・疑問の貼り出し、整理
14:00	パネリストからの回答
14:45	まとめ (パネリストより一言)
14:50	総括 (コーディネーター)
14:55	閉会挨拶 (佐賀大学男女共同参画推進室室長 吉住磨子氏)
15:00	閉会

表 1. 学生からの不安・疑問

大項目	中項目	質問内容	大項目	中項目	質問内容		
①仕事 (39件)	在学中にやっておくべきこと	就職のために大学でどのような取り組みをしましたか？	③結婚・子育て (32件)	仕事と家庭との両立	仕事と子育ての両立は出来ますか？<2人で同じ質問が出た>		
		社会人として必要な資質や能力は？(大学、高校生に)資格について			結婚や子供が生まれた場合、仕事を続ける方がいいのか？		
		将来、仕事に役立つこと(在学中にやっておいた方がいいことなど)			育児休暇がきちんと取れ、その後の復帰ができるか		
		在学中にやっておくべきこと			働きながら子供を十分に育てる制度はちゃんと整っているか		
	仕事で辛いとき	高田さん 就職の際に留学経験はどんなメリット・デメリットがありましたか		結婚したら子供が出来たら、仕事は続けますか	仕事は続けたいが、子育ても頑張りたいので両立が少し不安です。	産休・育休	仕事と家庭の両立をどのようにしていますか？
		高田さん 留学経験は今の仕事にどのように役立っていますか		産休・育休に対する周囲の意識はどうですか？ 取りやすいのか・とりづらいのか	男性でも育休は取れますか？		産休・育休のサポートの現状
		英語は必要か？		産休・育休のサポートの現状	産休・育休のサポートの現状		大木八重さん 育休がきちんともらえるか 職場復帰が可能か
		とても、やめたい！と感じたらやめてもいいですか		産休・育休のサポートの現状	産休・育休のサポートの現状		産休・育休のサポートの現状
	仕事の探し方	その仕事で自分が合っていないと感じるのはどのような時ですか？		仕事で困ったときどうしていますか？	結婚・出産できるのか	結婚・子育ての費用	どうやったら結婚できますか
		仕事でつらいと思ったとき、辞めたいと感じた時はどう乗り越えていますか？		就職後、夢を失ったらどうしますか	結婚できるのでしょうか		結婚相手の見つからないならどうしますか？ 晩婚が心配です無事に結婚と出産が出来ているかどうか
		就職後、夢を失ったらどうしますか		自分の向いている、やりたい仕事につけるか	結婚の決め手		結婚の決め手
		やりたい仕事を見つけるには？		やりたい仕事を見つけるには？	結婚の決め手と良さ		結婚の決め手と良さ
	ワークライフバランス	興味のある仕事を見つけるにはどうすればいいか		仕事を選ぶ基準で大事なことは何？	結婚・出産できるのか	結婚・子育ての費用	結婚の決め手
		長期休暇はどのくらいの期間もらえるのか？(お盆正月以外)		仕事を選ぶ基準で大事なことは何？	結婚の決め手と良さ		結婚の決め手と良さ
休日はどのくらいもらえていますか？		長期休暇はどのくらいの期間もらえるのか？(お盆正月以外)	結婚・出産できるのか	結婚の決め手と良さ			
子育ての時期とキャリアアップの時期がかさなるのでは？		休日はどのくらいもらえていますか？	結婚・子育ての費用	結婚の決め手と良さ			
転職	会社で働く時間と私生活(家族との時間など)のバランスは？	転職で不安な事はなかったのか	結婚・子育ての費用	子育て環境	収入はやはり子育てに大きく影響を与えますか？		
	教員と民間の転職という道はあるのか？	教員と民間の転職という道はあるのか？	結婚・子育ての費用		収入(給与)を奥さんに握られていますか？		
	転職のメリット・デメリット	教員と民間の転職という道はあるのか？	結婚・子育ての費用		結婚・子育ての費用はどのくらい見積もれば良いですか？		
	転職はどのように決めましたか？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		子供を育てるのはやっぱりお金がかかりますか？		
仕事のやりがい	仕事にやりがいを感じられるか	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用	その他	佐賀での子育ての環境は整っているの？		
	一番達成感があった仕事はなんですか？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		実家から離れた場合、子育てなど困っている方が周りにいらっしゃいますか？		
	企業と公務員それぞれの立場からみたイメージや特徴、やりがいなどは？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		男は仕事、女は家事という考えについての意見を教えてください後悔とかありますか		
	自分が確立できるのか？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		公務員の奥さまはパートがいいですか？(転職がある場合)		
将来への不安	来年の教員採用試験に合格できるか不安…	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用	その他	パートナーより仕事を優先してしまいうそで不安		
	学部卒で営業ではなく研究職につけるのか	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		今、幸せですか？		
	やりたい仕事に就けなかった時のことをよく考えてしまう。	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		相手の家族を受け入れられるかどうか(もし結婚したら)		
	円城寺さん 公務員試験受けるにあたって一番大切だと思う事はなんですか？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		友人との付き合いはどう変化するか		
公務員について	円城寺さんへ 救急医療システムを広める時、心掛けたことは？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用	月収・年収について	年収はいくらですか？<2人で同じ質問が出た>		
	円城寺さん お父様は何課ですか？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		月収に対しての手取り額はいくらですか？		
	待遇の良い職場に就けるかどうか	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		収入に不満はありますか？		
	どの企業についていたら安心か	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		自分の今の月給・年収で不満はないのか		
その他	環境になれるのに大変な点は？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用	貯金	家族を食べさせることが出来て、たまには遊べるくらいのお金はいくら？		
	30歳までで、どのくらいの部下がいるのか？	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		家族を困らせない程度の収入を維持できているかどうか		
	急な転職で困ったことはありますか	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		給料の使用の配分はどのようにしていますか？		
	どのくらいの頻度で転職はあるか！	転職のメリット・デメリット	結婚・子育ての費用		今の収入に満足していますか？仕事を選ぶ際の判断基準でしたか？		
②勤務地 (18件)	転勤	数年おきに転勤があったら落ち着かなそう	④お金 (25件)	貯金	どのくらいの貯金をしておけばいいのか？		
		転勤があるかどうか			30歳で貯金はどれくらいありますか		
		転勤は多いのか			老後に向けての貯金は年金だけで生きていける？		
		希望の勤務地で働くことが出来る環境ですか			どのくらい貯金すればいいか		
	佐賀で働くメリット・デメリット	転勤地は選べますか		貯金は必要か	子育て費用	子育て費用	貯金は必要か
		中国へ異動と言われたらいきますか？(出世に絡むと考えると)		貯金は必要か			子育て、教育の面で予想外の出費だったものは
		円城寺さんへ 勤務地として佐賀を選んだ理由。佐賀の現状と良さとは？		貯金は必要か			子供の将来のためにどのくらい貯金すれば安心か
		なぜ佐賀で働くと思ったのか。佐賀(地元)で働くことのメリットなど		貯金は必要か			子供の教育費と、自分の老後のために、どのくらい貯金しておけばいいのか
	県外で働くこと	佐賀で働くこと		佐賀で働くこと	その他	その他	子供を育てていけるお金があるのか
		佐賀で働くこと		佐賀で働くこと			30歳で安定した生活を送れる月収はどれくらい？
佐賀で働くこと		佐賀で働くこと	趣味に使う割合はどれくらいですか？				
佐賀で働くこと		佐賀で働くこと	お給料と、自分のやりたい仕事と、どちらが優先ですか？				
その他	佐賀で働くこと	佐賀で働くこと	その他	その他	転職する際に、判断材料として収入は、どのくらい気にしたか		
	佐賀で働くこと	佐賀で働くこと			就職後、金銭面で親に頼ったことはありますか？		
その他	佐賀で働くこと	佐賀で働くこと	その他	その他	円城寺さん お父様の収入を教えてください		
	佐賀で働くこと	佐賀で働くこと			円城寺さん お父様の収入を教えてください		

学生からの不安・疑問が最も多かったのは「①仕事」に関することである。中でもやはり、在学中にやっておくべきことや仕事の探し方、将来への不安といったこれからの進路決定・就職に関する内容が多くみられた。一方で、仕事のやりがいや仕事で辛い時、ワークライフバランス、転職等、社会人になってからのことについての不安・疑問も多く寄せられた。

「②勤務地」に関しては、転勤に関する内容が8件と最も多い結果となり、多くの学生が転勤に関し

て不安を持っていることが示唆された。また佐賀県で働くことのメリット・デメリット、そして県外で働くことについても寄せられた。中には「人生の大半を佐賀でいいのか」といった長期的な不安・疑問もあった。

「③結婚・子育て」は「①仕事」に次いで32件の不安・疑問があった。最も多かったのは「仕事と家庭との両立」に関する内容で、次いで「産休・育休」に関する内容も多かった。また「結婚・出産できるのか」、「結婚の決め手と良さ」など、結婚・出産自体ができるのかどうかの不安もあるようであった。この「③結婚・子育て」は分類できなかった質問（「その他」）が7件あり、他の項目に比べ多様な不安・疑問があったことも特徴である。

最後に「④お金」については、「月収・年収について」、そして次に「貯金」、「子育て費用」に関する内容が多く寄せられた。この項目は、生活や子育てをするうえでどの程度の収入・貯金が必要なのか、といった基本的な内容が多くみられ、学生のお金に関わる知識や情報が他の項目に比べ不足している可能性を示唆する結果となった。

当日の様子は以下のとおりである。



## 6. イベントの効果について

イベント終了後に学生に無記名アンケートを実施し、49件の回答を回収した（回収率89.1%）。回答者の属性は以下のとおりである。

まず回答者の居住地は多い順に、佐賀市30名（61.2%）、佐賀県以外8名（16.3%）、江北町2名（4.1%）となった。その他、唐津市、鳥栖市、多久市、武雄市、鹿島市、小城市、基山町、みやき町、

有田町がそれぞれ1名(2.0%)であった。回答者の所属は多い順に、大学生47名(95.9%)、短期大学生2名(4.1%)、また性別は多い順に、女性30名(61.2%)、男性19名(38.8%)である。

本イベントに対する評価については、「本日の講座はいかがでしたか？」の項目にて確認した。その結果は多い順に、「とても良かった」35名(71.4%)、「よかった」14名(28.6%)、「あまりよくなかった」0名(0.0%)、「よくなかった」0名(0.0%)と、非常に満足度の高い結果となった。評価に対する理由に関する自由記述回答を表2に示す。

表2. 講座の評価に対する理由, 感想

大項目	理由、感想	性別
トーク内容の広がり・深み (9件)	すごくリアルで先輩たちの話は面白い。	男性
	普通では聞けないようなリアルトークを聞くことが出来て良かった。	男性
	結婚や仕事など深いところの部分まで聞けたので良かった。	男性
	普段誰にも聞いて分からないような質問をできる機会だったから。	男性
	パネリストの先輩方皆さんがリアルなところまで話してくださったから。	男性
	働いてある方の”生の声”が聞けて良かったです。	女性
	今回このような講座に参加して、就職についてがっちり固い感じで話を聞いていましたが、すごく楽しく聞かせていただきました。お金や育休、産休の話など普段聞けないことが聞けて良かったです。	女性
	リアルな現状の話を知れたから。 仕事だけでなく生活の面での話は普段聞けないのでとても参考になりました。	女性 女性
多様な働き方を知れた (8件)	あまりない機会です4人の方々がそれぞれ違う考え方で就職し、結婚し、生活している姿を見ることが出来て良かった。得れることが参加するたびに異なってくると思うので、また参加したい。	男性
	色々な職、立場の人の働くリアルな話を聞くことが出来たから。	男性
	様々な経験をしている方々の意見が聞けてためになりました。	女性
	色々な話が聞けて良かった。	女性
	色々な年代のいろんな立場から話を聞くことが出来たから。	女性
	4人の方が話してくれましたが、考え方や生き方はそれぞれで自分がどうしていきたいかが大切だと思いました。	女性
	色々な職の方がいらっしや、参考になった。	女性
	色々な職業の方の話を知ることが出来たから。	女性
ロールモデルによるモチベーション喚起 (7件)	仕事に対する意識の高さを感じることができたため。	男性
	人生の先輩の話は興味深いものが多く、来てよかった。	男性
	働いている方の話を聞いて仕事に対しての意識が高まった。	女性
	自ら情報を得て、行動を起こしていく必要があると改めて感じ、良い動機付けになりました。	女性
	自分のやりたいことが何か分からなくて焦っていたので実際にやりがいのある仕事に就かれた方々の話を聞いて良かった。	女性
	回すぎない雰囲気、ゲスト(パネリスト様)がとても素敵なお話だったので、吸い込まれました。	女性
	それぞれお話しくださった方は自分の仕事が好きで、毎日大変でも楽しいんだろうと伝わってきました。就活の上で自分が考えるべきことが分かってきた気がします。	女性
	それぞれ異なるパネリストの意見が聞けたので良かった。進行であったり、グループワークがあったので、多様で深みのある考え方ができた。	男性
質問しやすさ・話しやすさ (6件)	紙に質問を書くというのが質問しやすくて良かった。	女性
	喋りやすかったから。	女性
	こういった形で参加できる機会もなかったのが非常に良い機会でした。また、あれば参加したいです。	女性
	ワークしながら社会人の方とお話しできたのは良かった。せっかくたくさん質問が出たのですべての質問に答えてほしかったです。	女性
	パネリストという形式が大変面白かったです。	女性
	パネリストという形式が大変面白かったです。	女性
佐賀の魅力を再発見できた (3件)	佐賀の魅力が多く知れた。	男性
	佐賀で働いている4人のパネリストの方々から話を聞くことが出来て、これからの自分の人生について改めて深く考えるきっかけになった。	女性
	今までは漠然と佐賀から出ていきたいと思っていましたが、佐賀の良いところを改めて感じたので、よく考え直そうと思いました。	女性
今後の参考になった (3件)	先輩たちが実際に社会に出て感じたことをたくさん知ることが出来た。	男性
	今後の大学生活に参考になりました。 就職してからの働き方が明確になった気がします。(内容よりも生活面)	女性 女性
もっと話を聞きたかった (3件)	リアルトークとあったのでもっと生々しい話が聞けると思ったがそうでもなかった。	男性
	自己紹介の時間が少しもったいなかった。あの時間も質疑応答に回してほしかった。 コーディネーターよりもう少しパネリストの声が聴きたかった。	男性 女性

評価の理由、感想として最も多くあがったのは「トーク内容の広がり・深み」である。本イベントはそのタイトル「サガで働く先輩たちのリアルトーク！！」でも分かる通り、広く深いところまで踏み込んだ問いかけをパネリストに行い、それに答えていただいた。この点について参加学生からの評価が最も高い結果となった。またこの点は男子学生からの評価が多かったことも特徴的である。次に「多様



な働き方を知れた」、「ロールモデルによるモチベーション喚起」という評価が多い結果となった。様々な属性のパネリストを慎重に選定したことで、多様な働き方を学生に提供することができたと考えられる。また地域で男女問わず自分らしく働くパネリストの姿が学生のモチベーションを喚起したことも明らかとなった。さらにイベントの形式についても、質問しやすく話しやすかったとの評価があった。

一方で、佐賀という地域における働き方の提供は3名のコメントの中に見られたものの、更なる情報提供を検討する余地があることが明らかとなった。また自分の疑問をもっと解消したかったという声もあり、この2点は今後の課題であると考えられる。

次に、ロールモデルイベントが、学生の自己概念と外的要因の統合の橋渡しとなり、自分らしい生き方・働き方を見出していく機会となったか、について、「本講座は、あなたの今後の「生き方・働き方」について考える上で、参考となりましたか？」との質問で検証した。結果は多い順に、「とてもそう思う」31名(63.3%)、「そう思う」15名(30.6%)、「あまりそう思わない」2名(4.1%)、「全くそう思わない」0名、無回答1名(2.0%)となり、多くの学生にとって、自分らしい生き方・働き方を見出していく機会となったことが分かる。どのようなことでそう感じられたかという問いに対する自由記述回答を表3に示す。

表3. 自分らしい生き方・働き方を見出す機会となった理由

大項目	どのようなことでそう感じられたか	性別
職業観・人生観に対する気づきが得られた (13件)	人生の一番長い時間としての働き、生涯は、勇気こめて進みたいと思います。	男性
	学生、社会人の双方に良いところがあり、それを楽しむことが大切だと思った。	男性
	就職の仕方でも自分の本当にやりたいことを仕事とするという事。	男性
	将来仕事に就く際にどのようなことを考えるかという事	男性
	今後の生き方について考える機会が正直あまりないので良かった。	男性
	「好きな事で仕事をしようと思うな、お金をもらうからにはそれなりの嫌な事もあるし、好きな事は仕事外の時間でもできる」という言葉がとても印象的でした。	女性
	どのように生きているか聞いてすごい参考になった。	女性
	やはり、就職するなら、自分がやりたいことを仕事に出来たらなと思いました。	女性
	どのパネラーの方も幸せそうで、仕事にやりがいを感じていて、素晴らしいと思った。	女性
	大人になって働くことが当たり前になった時、とても参考になると思います。	女性
社会人となってからのイメージが具体化された (6件)	働くことにおいて、何を重視するのか、大切にするのか、という事について考えさせられる点がたくさんあったので良かったです。	女性
	自分の人生とは違った考えや生き方を知り、視野を広げるいい機会だったから。就職したから絶対あっているというわけではない、という事を知った。	女性
	子育ては仕事のデメリットと思われがちだが、そんなことばかりではない。ましてやメリットにもなるという話が印象的でした。	女性
	実際の経験者の話を聞いて良かった。	男性
	お金や具体的な額の話聞いてイメージがはっきりできた。	男性
	年収などに親にさえ聞くことのできなかつたことをお聞きすることが出来て良かった。	男性
自分自身・学生生活を見つめ直すきっかけとなった (5件)	リアルな話だと感じた。非常に有意義だった。	男性
	子育てや産休・育休などリアルなお話がきけて良かった。	女性
	4つの大きなテーマからの質問・不安に対して、4人のパネリストの方々がそれぞれの経験等から話してくださったため参考になった。	女性
	将来の生き方、働き方について知り、今現在の取り組み、考え方を深めさせてくれた。	男性
	今後の学生生活について見つめなおす良いきっかけになりました。	女性
佐賀を見つめ直すきっかけとなった (5件)	もっと色々な職業を調べたいと思いました。	女性
	自分のことについて考えていこうと思った。	女性
	考え方自体を変えてみようと思う。	女性
	働き場は佐賀でも大丈夫と感じた。	男性
	就職とは?佐賀で働くこと。自分がやりたいことは、深く考えさせられた。	男性
その他 (4件)	大企業もいいが、地元の企業もいいと思えた。	男性
	佐賀出身としても佐賀のことを知ろうと感じたから。	女性
	地元を出るか残るか迷っていたけど、まず、自分の地域の良い点を知ろうと思った。	女性
	キャリアアップの話やお金についての話で。	男性
	今までに聞いたことのあるような内容だったため。	男性
公務員と民間を比較できて良かった。	女性	
元々自由で前向きな人間だったから。	女性	

自分らしい生き方・働き方を見出していく機会となった理由として最も多くあがったのは「職業観・人生観に対する気づき」が得られたという意見である。また次に「社会人となってからのイメージが具体化された」という意見が多く、イベントが学生の自己概念と外的要因を統合し、自らが社会に出たときのイメージをより具体化したことが明らかとなった。また今の自分、そして地元佐賀を見直すきっかけとなったという意見も多くあがった。

## 7. 考察と今後の課題

「サガで働く先輩たちのリアルトーク！！」は、学生の男女共同参画意識の啓発のため、多様な生き方・働き方や価値観、及びその底流にある男女共同参画の大切さについて学び、男女の固定的性別役割分担意識にとらわれない、自分らしい生き方・働き方を見出していく機会を学生に提供することを目的に開催した。

その結果として、学生からのアンケート結果では「職業観・人生観に対する気づきを得られた」、「社会人になってからのイメージが具体化された」、といった声が多く寄せられた。このことから、本イベントは学生の自己概念と外的要因を統合することを助け、学生が、地域で男女問わず生き活きと働くイメージを具体化させることに対して大きな効果を与えたと考えることができる。

しかし今回のイベントは1回限りであったため、その効果の持続については定かではない。そこで今後、学生への意識啓発を継続して行う仕組みを検討していきたい。

また昨今は、男女共同参画の観点だけでなく、キャリア教育や就職支援、企業の採用活動の一環として、同内容のイベントが多く開催され、学生からどのイベントに参加すればよいのか判断に迷うとの声も寄せられている。地域の自治体・大学・企業が連携して、男女共同参画に対する意識啓発のイベントを効果的に開催していくことも今後の課題としたい。

## 謝辞

本イベントにて学生の疑問・不安に向き合い、ご指導くださったパネリストの方々に深く感謝申し上げます。また、コーディネーターの内田氏及び本イベントの企画及び準備に携わったすべての関係者の方々に深く御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

Gibson, D.E. 2004 Role models in career development: New directions for theory and research. *Journal of Vocational Behavior*, **65**, 134-156.

石田秀朗 2010 値創造という視点から考える大学生のキャリア教育論 奈良文化女子短期大学, **41**, 11-21.

- 株式会社浜銀総合研究所 2013 キャリア教育の内容の充実と普及に関する調査報告書.
- 坂本麗香 2013 キャリアモデルの探索と形成にむけてー女子大学におけるキャリアモデルレポート  
の実践からー 名古屋女子大学紀要, **59**, 87-97
- 佐藤浩章 2006 キャリアモデルを活用した教育の可能性 若者の仕事生活実態調査報告書,pp121-  
125.
- 中央教育審議会 2011 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について.
- 古野庸一 1999 キャリアデザインの「必要性」と「難しさ」 Works, **35**, 4-7.